

奥尻高等学校で特別授業を実施しました（2018/5/24）

テーマ：東北大学災害科学国際研究所

場所：奥尻町立奥尻高等学校

2018年5月24日、奥尻町立奥尻高等学校（全校生徒44名）にて、当研究所 災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野の越村俊一教授による特別授業が開催されました。

奥尻高等学校は、1975（昭和50）年4月に北海道江差高等学校奥尻分校として、2年後に北海道奥尻高等学校として開校しました。2016年に町立高校へ移管し、全国から生徒募集を始めました。2017年度には5名、2018年度には16名が島外から入学し、全校生徒44名の半数近くが「島留学生」となっており、様々な特色ある取り組みを行っています。

今回の特別授業は、越村教授が一般社団法人地域安全学会奥尻大会の担当理事として奥尻島を訪問し、当研究所の定池祐季助教（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）と共に奥尻高等学校に協力依頼をしたことがきっかけとなって実現しました。

特別授業は「越村教授との対話」と題し、越村教授による「研究者になるまでの道のり」、「探究しつづける心」というテーマの話と、生徒からの質問という形式で行われました。生徒達からは、地震や津波に関するものから、部活動の悩み、勉強の仕方、人生の中で大切にしている考え方など、多岐に渡る質問が寄せられました。授業の後も、熱心に質問をする生徒達の様子から、越村教授の熱意が生徒達に良い刺激を与えたことがうかがえました。

なお、この授業の様子は、奥尻高等学校 facebook で配信されています。



文責：越村俊一（災害リスク研究部門）・定池祐季（情報管理・社会連携部門）